

平成24年度 学校評価結果報告書

小松市立中海小学校

	自 己 評 価				学校関係者評価		次年度の方向（改善計画等）
	評価項目と具体的取組	評価指標	達成度判断基準	取組の状況	達成状況	学校関係者評価者による意見	
① 組織的な学校運営	<p>〈組織的・機能的な学校運営〉</p> <p>校長の学校経営構想のもとで、各主任を核とした組織的・機能的な学校運営を行う。</p>	<p>【努力指標】</p> <p>運営委員会を定期的に開催し、諸課題の解決に努める。</p>	<p>運営委員会を</p> <p>A: 定期的に有効に開催できた</p> <p>B: 定期的に開催できた</p> <p>C: 開催できないこともあった</p> <p>D: 十分に開催できなかった</p>	<p>本年度より、運営委員会の定期開催を可能な限り少なくし、検討事項の内容と方法を精査の上開催し、会議にとられる時間的制約を改善している。</p>	B	<p>会議の定期開催は必要であるが、1時間内に集約した、密度の濃いものを求める。必要な時に適時開催できる体制を今後も持ち続けていってほしい。</p>	<p>・運営内容・方法の検討 運営委員会の協議内容や開催日程を精選し、効率的運用の検討をはかっている。今後、必要な時、適時開催できるような体制を持ち続けるとともに、委員(主任)からの開催提案の要求を調整し、自発的開催へと図っていきたい。</p>
	<p>〈学校経営構想の具現化〉</p> <p>各主任を中心に、校務分掌の年間計画を作成し実施する。</p>	<p>【成果指標】</p> <p>児童の生きた力となるように、各部でそれぞれの活動を協議し実践する。</p>	<p>各部の年間計画を</p> <p>A: 十分に実践できた</p> <p>B: 実践できた</p> <p>C: あまりできなかった</p> <p>D: できなかった</p>	<p>運営委員会の改善と合わせ、各部会でも活動実践の改善が進められている。各分掌の連絡調整も円滑に行われている。</p>	B		
② 確かな学力の育成	<p>〈基礎・基本の学力の定着〉</p> <p>読み・書き・計算の基本をしっかり定着させ、わかる授業の実践に努める。</p> <p>【学びの指針4条】</p>	<p>【成果指標】</p> <p>国語科・算数科の基礎・基本が8割以上できる子が80%を越えるようにする。</p>	<p>基礎・基本の定着度が</p> <p>A: 90%以上</p> <p>B: 80%以上</p> <p>C: 70%以上</p> <p>D: 70%未満</p>	<p>中海プランをもとに、「分かる授業」の実践と検証「かすかみタイム・チャレンジタイム」の充実に努め、漢字計算を中心とした基礎基本はほぼ定着している。</p>	B	<p>教師・児童共に他学年の授業を見あうことは良いことであり、学級間や他学年への教え合い・学び合いで交流し合うことも重要なことと考える。特に他学年への教え合いは刺激があって、児童からの授業改善の方法に役立つであろう。</p>	<p>・確かな学力の向上 定着を意図した授業展開を工夫し、基礎基本を生かした活用力の育成に努めているが、今後さらに、児童には力が付いたかという視点で評価を伴った指導を継続し、確かな学力に自信をつけさせたい。</p>
	<p>〈授業改善〉</p> <p>「学び合う子」の育成をめざして授業改善に努める。</p> <p>【学びの指針1, 2, 3, 5, 6条】</p>	<p>【努力指標】</p> <p>学習の振り返りを書かせ、交流し、学び合いのある授業を行う。</p>	<p>学び合いのある授業を、学期に</p> <p>A: 全単元</p> <p>B: 全単元の2/3以上</p> <p>C: 全単元の半分</p> <p>D: できなかった</p>	<p>研究授業のほかに、授業公開を設定し、互いに授業を見あい、授業改善に努める体制づくりが出来た。</p>	B		
③ 豊かな心の育成	<p>〈積極的な生徒指導〉</p> <p>学習指導部とタイアップし、生徒指導の3機能をいかした授業づくりを推進する。</p> <p>【学びの指針7, 11条】</p>	<p>【満足度指標】</p> <p>3機能の視点を持った研究授業を年間6回以上行う。</p>	<p>3機能の視点をもって研究授業を</p> <p>A: 7回以上</p> <p>B: 6回以上</p> <p>C: 5回以上</p> <p>D: 5回未満</p>	<p>全ての研究授業は3機能の視点をもって行った。年間計画に従って順調に進捗した。</p>	B	<p>今年度はじめて、たてわり遠足を行い、大きな収穫を得たようだ。1～6年まで触れ合う機会を多く持ち、良好な人間関係づくりに努力してもらっている。学力の育成と合わせ、子どもたちのがんばりの成果を示し、評価することで、さらに成長すると思われる。さまざまなたてわり活動を通して、意図的な仕掛けを行い、成果を上げて欲しい。</p>	<p>・豊かな心の育成 生徒指導の3機能を日常的かつ積極的に授業実践に取り入れながら「豊かな心の育成」を図っていききたい。授業づくりは実態に合わせ、視点を絞り、より明確に3機能をいかした授業づくりを進める。「学校へ来ることが楽しい」と感じている児童の割合が伸びていない。確かな学力の向上や豊かな人間関係づくりと合わせ、成果を評価し、一人ひとりの児童に自信を持たせていきたい。たてわり集団活動による豊かな人間関係づくりは一定の成果もあり、今後さらに充実したものとなるよう、事前事後指導の中に、「楽しさ」だけでなく「よさ」に気付かせるように工夫する。高学年は充実感、達成感を持たせるように工夫する。</p>
	<p>〈思いやりのある子の育成〉</p> <p>自他ともに認め合い、学校へ来ることが楽しいと感じる子どもを育てる。</p> <p>【学びの指針5, 6条】</p>	<p>【満足度指標】</p> <p>学校へ来ることが楽しいと感じる子が8割以上になるように努める。</p>	<p>楽しいと感じている児童が</p> <p>A: 90%以上</p> <p>B: 80%以上</p> <p>C: 70%以上</p> <p>D: 70%未満</p>	<p>1学期調査では全体で90%を超えAとなったが、2学期末調査では86,8%となり、Bとなった。</p>	B		
	<p>〈たて割り活動による豊かな人間関係づくり〉</p> <p>異年齢集団による活動を通して、学年の枠を越えた人間関係に気づかせ広げる手立てを行う。</p> <p>【学びの指針2条】</p>	<p>【満足度指標】</p> <p>学年に応じた目的で楽しく活動しながら、異学年のよさや様々な見方、考え方があることに気づくことができる。</p>	<p>交流の楽しさと良さを感じた児童が</p> <p>A: 90%以上</p> <p>B: 80%以上</p>	<p>児童アンケート結果88.7%（7月）88.1%（12月）前年度に比べて良い方向に向かっている（特に高学年）</p>	B		

			C: 70%以上 D: 70%未満			
	(道徳教育の充実) すべての教育活動との関連が図られた全体計画・指導計画のもと、道徳の時間を要した道徳教育を行う。 【学びの指針10条】	【成果指標】 指導の内容を工夫した授業を、どの学年も学期に2回以上行う。	内容を工夫した授業を学期に A: 3回以上行った B: 2回行った C: 1回行った D: できなかった	計画通り進捗中。参観日を利用し、公開授業を進めてきた。2学期以降、継続して授業の工夫に取り組み、さらに回数を増やしていきたい。	B	
④ 健やかな身体の育成	(たくましい体の育成) 体育科や特別活動での体育的活動を通して、スポーツや体を動かすことの楽しさを知る。	【努力指標】 各体育カードを活用したり校内各種大会に取り組む。	体育カードの活用や校内各種大会に A: 十分に取り組んでいる B: 取り組んでいる C: あまり取り組んでいない D: 取り組んでいない	鉄棒は全体に技術が上がり成果があった。水泳教室は高学年の泳力を、持久走はマラソントイム(二週間前)から)で全員完走	B	健康づくりに十分に取組んでいる。校内ばかりでなく、校外との交流や体力づくりに取り組み、評価できる。学校教職員も積極的に取組んでいる。テーマや目当てをはっきりさせることが大切。また今後も治療率が100%になるよう声かけをお願いしたい。
	(健康教育) 自らの健康に興味や関心を持つ児童の育成に努める。	【努力指標】 自らの健康に興味を持ち健康的な生活を送れるように努めている。	診療カードの受診率が A: 80%以上 B: 70%以上 C: 60%以上 D: 60%未満	受診率91.2%(7月78%)。健康の大切さの意識を保健指導で行った。同時に保護者への声かけも行ったことで成果が上がった。	A	・健やかな身体の育成 校内外の競技会などに児童の積極的な参加を促し、競技会などを通して達成感や充実感を持たせていきたい。治療率治療率について、歯科治療率は県表彰を受けるほど高いが、他の診療科について受診率治療率とも伸び悩みがあるため、今後さらに治癒への声かけ指導を行ってきたい。
⑤ 家庭・地域との連携	(基本的生活の確立) 家庭と連携して早寝・早起き・朝ごはん運動を推進する。	【努力指標】 早寝・早起き・朝ごはんが実行できている児童が	早寝・早起き・朝ごはんが実行できている児童が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	朝ごはんは100%近い数字で、各家庭の取り組みが功を奏しているが、早寝・早起きが不十分である。形として出来てはいるが内容の充実をめざしたい。	B	・家庭地域との連携 全体として昨年より若干良い結果が出ているが、取組内容が若干希薄になっている。今後、意図的に家庭地域に啓発活動を行い継続強化して行いたい。家庭学習の習慣化が出来てきた。家族読書も定着してきた。今後もさらに学年に応じて内容を充実し、進化させていくよう指導を進めたい。信頼される学校づくりは評価Aとなっているが、内容と周知に改善点を見出していくように図りたい。 ふるさとから学ぶは各学年とも体験活動が多く充実しているが、児童の振り返りが達成感のあるものになるよう、計画を見直し、改善を繰り返しながら、内容の充実したものに積み上げたい。
	(家庭学習と読書の習慣化) マニュアル等を作成し家庭学習と読書の定着を図る。 【学びの指針7, 8, 12条】	【成果指標】 学年に応じた内容で、家庭学習(読書)をする。	毎日取り組んでいる子の割合が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満	10月、11月、2月の家庭がほぼ毎日週間では95%であった。毎日の自学ノートの取り組みも定着してきた。	A	・家庭地域との連携 全体として昨年より若干良い結果が出ているが、取組内容が若干希薄になっている。今後、意図的に家庭地域に啓発活動を行い継続強化して行いたい。家庭学習の習慣化が出来てきた。家族読書も定着してきた。今後もさらに学年に応じて内容を充実し、進化させていくよう指導を進めたい。信頼される学校づくりは評価Aとなっているが、内容と周知に改善点を見出していくように図りたい。 ふるさとから学ぶは各学年とも体験活動が多く充実しているが、児童の振り返りが達成感のあるものになるよう、計画を見直し、改善を繰り返しながら、内容の充実したものに積み上げたい。
	(信頼される学校づくり) 学校での教育活動をより多く知ってもらうように学校公開などの取り組みをする。 【学びの指針9, 10, 11】	【成果指標】 学校の教育活動を知ってもらう取り組みを5種類以上行う。	学校の教育活動を知ってもらう取り組みを A: 6種類以上行った B: 5種類行った C: 4種類行った D: 3種類以下しか行えなかった	・授業参観 ・校長だより ・PTA広報 ・学級だより ・学校説明会(育友会総会、学校保健委員会)	A	・家庭地域との連携 全体として昨年より若干良い結果が出ているが、取組内容が若干希薄になっている。今後、意図的に家庭地域に啓発活動を行い継続強化して行いたい。家庭学習の習慣化が出来てきた。家族読書も定着してきた。今後もさらに学年に応じて内容を充実し、進化させていくよう指導を進めたい。信頼される学校づくりは評価Aとなっているが、内容と周知に改善点を見出していくように図りたい。 ふるさとから学ぶは各学年とも体験活動が多く充実しているが、児童の振り返りが達成感のあるものになるよう、計画を見直し、改善を繰り返しながら、内容の充実したものに積み上げたい。
	(ふるさとから学ぶ) 総合的な学習、体験学習をとおしてふるさとの自然・文化・人々に学び、ふるさとに愛着を持つ子を育てる。	【努力指標】 ふるさとや地域の素材を学習材にした体験活動をどの学年も2回以上行う。	ふるさとから学ぶ体験活動を A: 3回以上行った B: 2回行った C: 1回行った D: できなかった	・6年ふるさと歴史探検隊 ・5年稲作体験 ・4年竹の子掘り・竹の子料理 ・3年ギフチョウ飼育観察 ・ホテルの放流 ・低学年ふるさと探検 ・水生生物調査 ・ウマノスズクサ観察	A	・家庭地域との連携 全体として昨年より若干良い結果が出ているが、取組内容が若干希薄になっている。今後、意図的に家庭地域に啓発活動を行い継続強化して行いたい。家庭学習の習慣化が出来てきた。家族読書も定着してきた。今後もさらに学年に応じて内容を充実し、進化させていくよう指導を進めたい。信頼される学校づくりは評価Aとなっているが、内容と周知に改善点を見出していくように図りたい。 ふるさとから学ぶは各学年とも体験活動が多く充実しているが、児童の振り返りが達成感のあるものになるよう、計画を見直し、改善を繰り返しながら、内容の充実したものに積み上げたい。